

## ＜シンポジウム (1)―6―1＞認知症疫学研究が提供するエビデンス

# 有病率：どこまで増える認知症

朝田 隆

(臨床神経 2012;52:962-964)

Key words : 認知症, 有病率, アルツハイマー病

### I はじめに

近年、急速に進展した日本の高齢化社会と認知症高齢者の増加が注目されてきた。しかしアジアにおいて急速に高齢化が進むのは日本ばかりではない。たとえば中国では、現在12%程度の高齢化率が10年後には20%になると見込まれているだけに認知症への緊急対応が進行中である。認知症の最大の危険因子は加齢である。よって人口構成の高齢化とともに長寿化が進んで平均寿命が、男性80歳、女性86歳にいたった今日のわが国では、認知症高齢者は当然増加し続けることになる。

本稿では日本における晩発性認知症の患者数、原因となる疾患頻度などを紹介する。

### II 晩発性認知症の疫学

#### 1) わが国における従来の知見

わが国における近年の晩発性認知症の疫学的な知見は、あまりわかっていなかった。というのは概してデータは様々な方法による小規模調査からの推定であり、全国規模で同一の方法で同時という調査は久しくなされてこなかったからである。

従来の主だった疫学研究報告<sup>1)</sup>における最大公約数的な知見として、65~69歳での認知症有病率は1.5%だが、以後5歳ごとの倍に増加し、85歳では27%に達するといわれてきた。そして2011年時点でわが国の65歳以上の高齢者における有病率は10%程度と推定されていた。下方に<sup>1)</sup>よれば、今後高齢者人口の急増と共に認知症患者数も増加し、2020年には325万人まで増加すると述べられている。

#### 2) 全世界の認知症有病率と発症率推計値

Alzheimer's Disease Internationalの研究グループは、1980年から2004年にかけて出版された世界各国の認知症疫学調査をもちいてメタ解析をおこなって全世界の認知症人口推計値を算出した<sup>2)</sup>。それによれば、2001年における全世界の60歳以上人口6億1,620万人のうち2,430万人が認知症に罹患しており、有病率は3.9%である。そして認知症人口の60%は発展途上国で生活している。

発症率(対1,000人年)は7.5であり、2001年において年間460万人が新たに認知症に発症し、7秒に1人は新規患者が現れる計算になる。さらに、認知症人口は20年ごとに倍増し、2040年には全世界で8,100万人となる。発展途上国在住者の割合は2040年時点で71%にも増加するとされる。

#### 3) わが国における最新の全国調査

最新の全国調査は、全国6カ所(新潟県上越市、茨城県利根町、愛知県大府市、島根県海士町、大分県杵築市、佐賀県伊万里市)において、65歳以上住民約5,000名を対象として調査された。各地域とも、調査方法は次のように統一された。(1)調査地域における最新の年齢階層別人口を調査地域全体と地区別に調査する(2)調査対象人数の設定では、抽出調査をおこなうサイトの対象人数n=900、男女比1:1として、5歳刻みの各階層の対象人数を設定。男女別に、各階層の対象人数が100人以上のばあいには、そこから無作為抽出して100人とする。100人を下回る年齢階層については全数調査。基準日は平成21年10月1日とした。調査は3段階からなる。1次は認知機能検査のみ、認知症などの異常がうたがわれる場合に2次として医師が一定の手順で構造化面接をおこなった。3次では参加者の希望に応じてMRIを実施した。

新潟県上越市(65歳以上人口53,171、高齢化率26.2%)、茨城県利根町(4,707、26.7%)、愛知県大府市(14,515、17.2%)、島根県海士町(924、38.0%)、大分県杵築市(10,102、30.9%)、佐賀県伊万里市黒川地区(554、30.7%)においてえられた結果を示す。全国レベルでの参加率は64.7%(調査期間中の死亡例もあり、最終的には70%位)と満足できるものであった。Fig. 1に示すように対象とした65歳以上の住民における認知症有病率は、平均で15.75%(12.4~22.2%)であった。従来報告されてきた有病率と比較して明らかに高い<sup>3)</sup>。

これらの6地域のうち4地区のデータを元に5歳刻みの年齢階層別の認知症有病率をFig. 2に示した。今回の調査結果からは、年齢階層を問わず全体に有病率が従来の推定値より高いことがみて取れる。とくに85歳を超えると3人に一人、90歳以上では過半数が認知症であった。

基礎疾患では、アルツハイマー型認知症(AD)が最多で65.8%、次いで脳血管性認知症(VD)17.9%、レビー小体型認知症/パーキンソン病の認知症4.1%、前頭側頭型認知症(FTD)0.9%という結果であった。かつてわが国ではVD

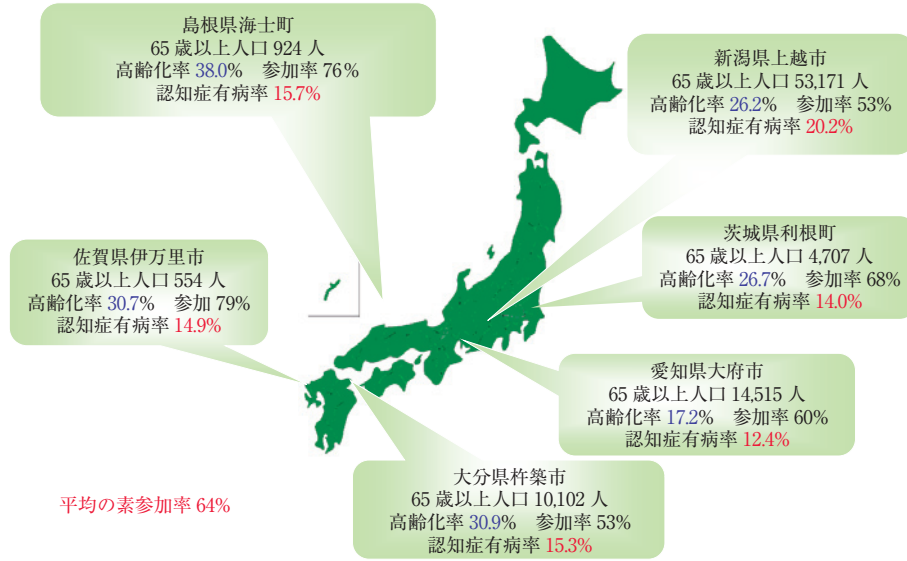


Fig. 1 わが国における認知症の有病率.

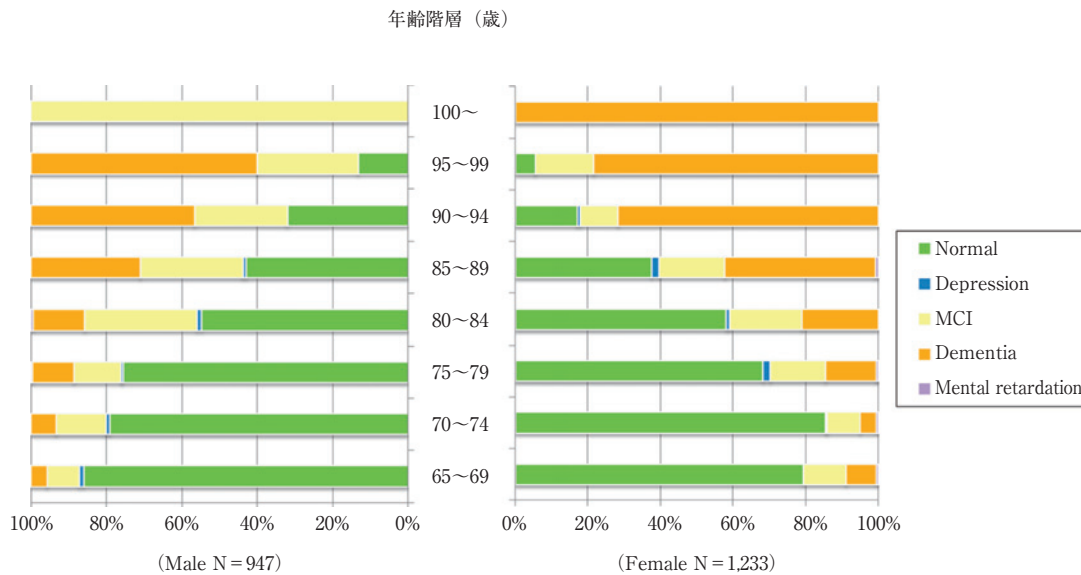


Fig. 2 年齢階層別の認知症有病率.

が最多でADがこれに続くとしたが、1990年代以降はとくにADが多いといわれるようになった。今回の結果はこの傾向がさらに進んだと解釈できる。

以上をまとめると認知症の有病率は、2010年時点で10%程度と予測した従来の報告を上回っている。しかし今回の調査の多くが、全国平均(22.5%)よりも高齢化率の高い地方の市町である。それだけに今回の数字から全国における有病率を推定することには危険性がともなうと考えられる。現在、都市部での調査が実施中であり、この結果と併せて最終結果が示される予定である。

※本論文に関連し、開示すべきCOI状態にある企業、組織、団体

はいずれも有りません。

文献

- 1) 下方浩史. 我が国の疫学統計. 日本臨床 増刊号 痴呆症候学 3 2004;62 (増刊号):121-125.
- 2) Ferri CP, Prince M, Brayne C, et al. Global prevalence of dementia: a Delphi consensus study. Lancet 2005;366: 2112-2117.
- 3) 朝田 隆. 厚生労働科学研究費補助金 認知症対策総合研究事業 認知症の実態把握に向けた総合的研究 平成 21 年度~平成 22 年度総合研究報告書. 2011.

**Abstract****Prevalence of dementia in Japan: past, present and future**

Takashi Asada, M.D.

Faculty of Medicine, Department of Psychiatry, University of Tsukuba

As the aging society with low birth rate progresses, the burden of care for the dementia elderly increases. Thus, an increasing attention has been paid to the epidemiology of dementia in Japan. This phenomenon is also observed in many developing countries all over the world. In this paper, the author reports the prevalence of dementia among the elderly people aged 65 years and older in Japan using the data from a recent nation-wide survey. According to the results of this survey which was conducted at seven sites in Japan, the prevalence rate was estimated to be 15.75% (95% CI: 12.4-22.2%) which was much higher than that had been estimated before. Alzheimer disease is the most common illness that causes dementia, and followed by vascular dementia and Lewy body dementia. As the limitation of this nation-wide survey, no study was conducted in urban area with low percentage of elderly in a population. Thus, additional studies are ongoing into the prevalence of dementia in urban areas.

(Clin Neurol 2012;52:962-964)

**Key words:** dementia, prevalence, Alzheimer disease

---